

ポスター①

～外来がん化学療法連絡会～ 薬薬連携の取り組みと成果

○大友 雅子（尾久ミキ薬局）
村岡周一・小塚貴子・石村万紀・大島裕美（尾久ミキ薬局）
長久保久仁子（日暮里店）
外石昇・山賀亮祐（東京女子医大東医療センター薬剤部）
吉松和彦（東京女子医大東医療センター外科医師）

【はじめに】

昨年の発表に引き続き、その後の取り組みと成果を報告します。
東京女子医大東医療センターで実施のレジメン（療法）について情報共有を行う会として、『外来がん化学療法連絡会』を昨年3月に発足。将来的にはがん化学療法に特化せず、他の分野についても情報共有の範囲を広げていくとの展望を掲げ開催しております。

【目的】

薬局と病院が連携し患者情報を共有することで的確なサポート・対応が可能な仕組み作りが必要と考えます。そのために薬局・病院の薬剤師がともに顔の見える関係から信頼し合える関係を作り、患者を中心とした医療の確立を目指すことを目的としました。

【方法】

- ① 2か月に1度の間隔で連絡会を実施
（対象は荒川区の調剤薬局）
- ② 連絡会実施前月に病院薬剤師と打ち合わせし、
連絡会のテーマや役割を決定
- ③ 連絡会開催チラシを、荒川区薬剤師会をはじめ近隣薬局に配布、参加人数を取りまとめ
- ④ 連絡会終了後に薬剤部が作成した議事録を荒川区薬剤師会・近隣薬局に通知
- ⑤ 薬局内で、参加できなかった人も共通認識できるよう資料の配布、掲示

【結果と考察】

今日までに開催10回を終えました。毎回様々なテーマを取り上げ、病院と近隣薬局との双方向の情報共有を図っております。病院薬剤師や病院周辺の調剤薬局だけでなく、荒川区薬剤師会会員の薬局との情報共有ができる場となり、顔がみえる関係になってきたことが、なによりの収穫です。薬薬連携をより一層強化していきたいと考えます。